

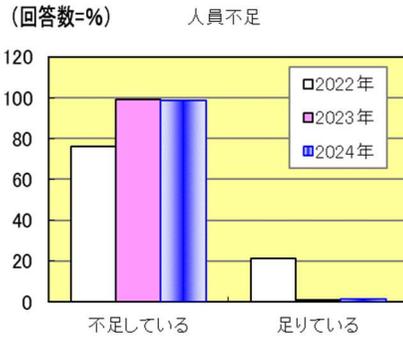
24 春闘「整備安全アンケート」集計結果①

整備の人員不足は今年も変わらず

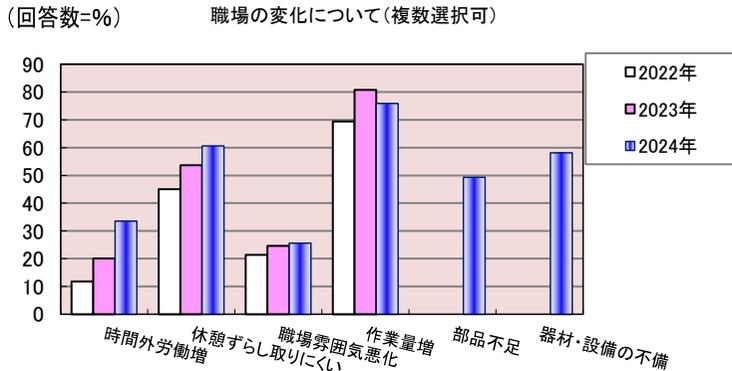
今年1月に実施した「整備連 整備安全アンケート」の集計結果の報告です。回収枚数は203で、ライン整備142、ドック整備42、ショップ整備1、スタッフ18となり、勤務は2交代142人、3交代52人となっています。このアンケートはANAグループにも取り組みをお願いしていますが、WEBで1件しかなく集計では除外しました。このアンケートではJALEC社員もJAL系に含まれるため20代、30代から8件の回答がありました。外航は内容を変えて違う時期に集計し、全体像は整備連で分析します。

□ この1年間の職場の変化について

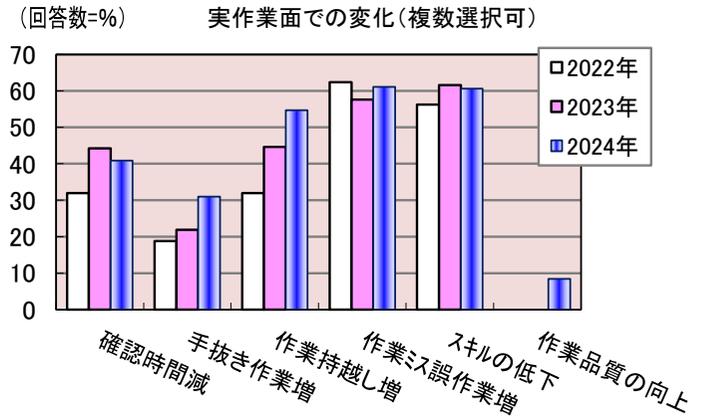
■ 職場の人員については、「不足している」が昨年の99.1%から98.5%とほぼ変わらない結果になりました。人員不足をこれまでも訴えてきましたが、整備の職場ではしっかり数字に表れました。復便と外航受託に対し、人員と作業負荷が合っていないことが問題になっています。



■ 職場の変化について、選択項目を選ぶ設問では、作業量増の項目だけ減り、他の項目は昨年を上回りました。今年から「部品不足」「器材・設備の不備」を追加し、今後も継続して見ていきます。この1年は休憩問題がクローズアップされました。

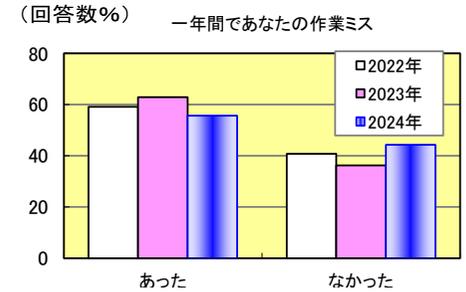


■ 職場の実作業面での変化については、「手抜き作業増」が3割を超えました。具体的内容を会社に示すと大きな問題になりますが、そういう回答が出ることを認識し職場環境を改善すべきです。一方で各種施策により品質向上が進むかもしれないため「作業品質の向上」も選択肢に入れました。

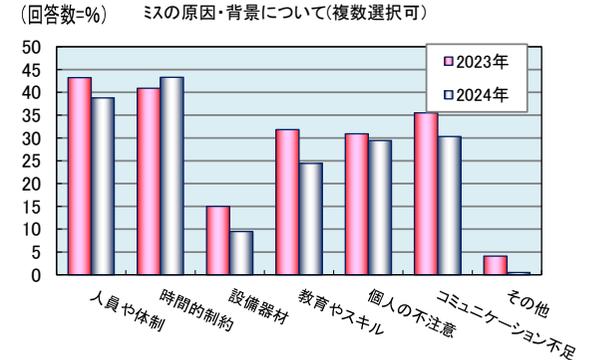


□ この1年間の作業ミスについて

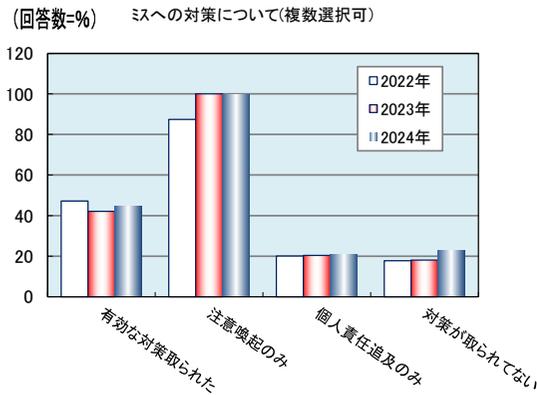
■ 自らの作業ミスについても聞いています。今年は僅かながら改善傾向にあります。ミスの中には書類のミス、電子ログのミスのことが含まれています。DXによる整備の働き方改革を進めていますが、まだ電子化による処理ミスのリスクの方が大きい状況が続いています。



■ ミスの原因について昨年と比較してみると、「時間的制約」が増えて最多になりました。タイムプレッシャーの厳しさが分かります。その他の理由として「出張者のため慣れない環境」「システムに問題あり」「職場の習慣」という回答もありました。

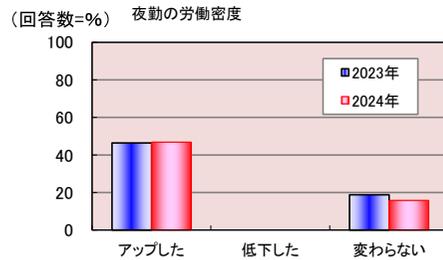


■ ミスへの対策については、3年間の経過を見ています。「注意喚起のみ」が今年も高い割合となり 99.5%。対策が増えすぎること問題になるので難しいところです。一方で「有効な対策が取られた」が若干増えましたが、今後こちらの回答が増えるように有効な対策を考え、現場に浸透させていくべきです。

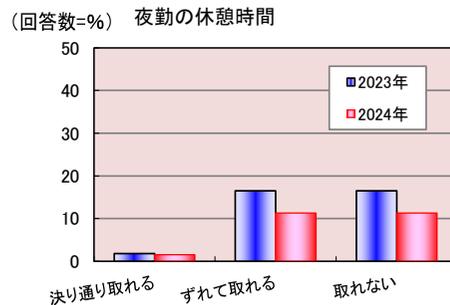


□ 夜勤の実態について

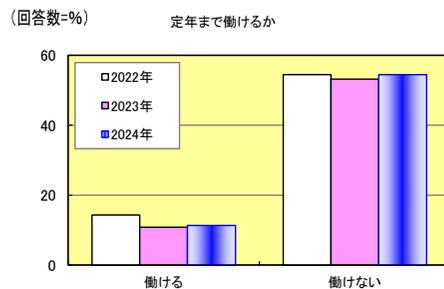
■ 恒常的に夜勤を行っている人に質問をしています。今年度はドック・ラインを合計した数値をこれまでと比較しました。労働密度が「アップした」という回答は変化せず、「低下した」は全くありません。



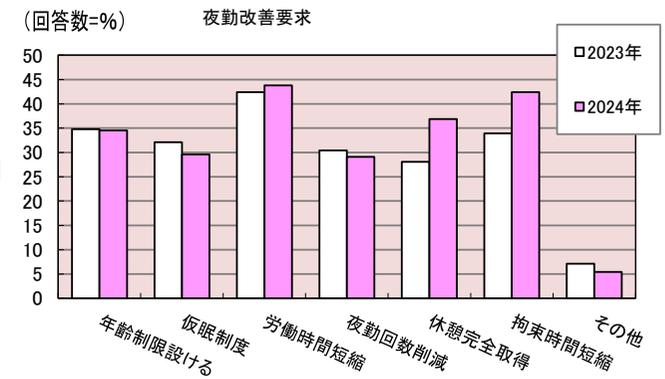
休憩時間に関しては、「決まり通り取れる」はほとんどいません。そもそもラインでは休憩時間に決まりはなく、夜勤では 90 分を分割して取るように言われていますが、6月に組改される前から「90分取得するのは無理」と主張してきました。結果として休憩が取れなかった分を残業で処理していたため、残業時間が増えることになり、半年フォローアップで 60 分に戻すことが提案されています。引き続き疲労が貯まらない勤務形態を求めていきます。



「定年まで働けるか」への回答を 3 年間で比較しても傾向は変わりません。60 歳で再雇用されるときに、2 シフトへ異動する人もいますが、そのまま夜勤を選ぶ人もいます。夜勤の負荷を少しでも下げて再雇用者にも残ってもらえるようになれば、現役世代の労働密度も下がるはずで



■ 夜勤の改善要求については、「休憩完全取得」と「拘束時間短縮」が増えています。その他では「資格者を含む人員増」「計画工数ダウン」夜勤手当増額」「工数だけでなく SQ を見越した余裕をもった人員」などがあり、命を削って働いていることの訴えもありました。



夜勤の「定年まで働けない」理由の記述内容

◆ 現行夜勤職場で定年まで働けないと答えた 111 件(昨年 122 件)中、103 件(昨年 1207 件)の理由の記述がありました。今年も一番多いのは、「体力が持たない」といった健康上の理由です。「労働密度」や「人員不足」への回答もありました。

【具体的記述内容抜粋】

- 命を削るような勤務時間に身体が悲鳴を上げている。
- 時間が長い、休憩が取れない、回数が多い、割り増しが低すぎる。
- 人が足りず、作業経験者も無く責任だけ負わされるのは困る。
- 生活リズムが 5 日周期でバラバラで、これがずっと続く。人間にとってマイナスにしかならない生活パターンであり、若ければ乗り切れるが年寄りには肉体的にも無理ができず、障害が出てくると思う。
- 人数が少ない。重たい作業をやっても支援がもらえない。AMM を読み込む時間もない。書類の不備がでると、残業にもならず訂正処理を HMQ で行っている。
- 若年層の資格者が圧倒的に不足している。そもそも適正な人員配置になっておらず、常に資格者に負担が重く掛かっている。
- 休憩も取れないことが増え、作業量及びタイムプレッシャーが酷い。
- 肉体的、体力的に無理だ。しかも雇用延長している人は軒並み 3 シフトで夜勤をやっている。まるで人間的な扱いが無い。
- 若い人と同等には働けない。夜勤に入ってる事自体が不思議だが、夜は目も見えにくいし効率も悪い。長続きしないと思う
- 理由もなにも、体が持たない…